

【題材名】 国語科「フォトポエムを作ろう」

- 【内 容】
- ① ロイロノートで写真を撮影する。
  - ② 撮った写真に川柳や詩を書き込んだり打ち込んだりする。
  - ③ 提出箱に提出する。
  - ④ 提出されている作品を共有する。

【使用アプリ】 ロイロノート

【事例紹介】 国語科の俳句作りや詩、季節に関係する単元でロイロノートを活用する実践を紹介します。ロイロノートを活用する意図としては、①写真を撮った後、すぐに使用できること（他の手順を踏まずにできる。）②共有しやすいこと、が挙げられます。

例として、6年生 国語科「春のいぶき」を取り上げます。「春のいぶき」の学習では、「春」を感じるものから川柳や詩を作る活動があります。そこで、実際に「春」を感じるために、教室の外に出て、自分が感じた「春」を写真に撮ります。そのとき感じたことを川柳や詩にして書き表し、フォトポエムを完成させます。活動の最後には、みんなが作った作品をロイロノートの提出箱に提出し、作品を共有することで、みんなが感じた「春」や表現の工夫を話し合います。



【解 説】 川柳や詩を作る活動では、想像したことや考えたことを表現することが難しい児童が、苦手意識を持っているように感じます。そこで、自分が表現したい場面を「写真」として切り取ることで、そのとき感じた思いや考えを表現しやすくしました。今回は、6年生 国語科「春のいぶき」の学習を取り上げましたが、様々な学年で活用できると思います。また、操作手順が少ないので、ロイロノートの導入としても行いやすいと思います。

【参考：D-project プロジェクト 2021 フォトポエムプロジェクト

[d-project.jp/2021/photopoem/index.html](http://d-project.jp/2021/photopoem/index.html)】

(教育委員会主幹講評) タブレット端末のカメラ機能とロイロノートの長所を生かした活用事例です。日常生活の中の風景のある瞬間を映像として切り取り、そこから感じた気持ちを「俳句や詩」で表現する。ICTを思考の道具、表現の道具として活用している好事例です。各校でロイロノートを活用しての観察記録や実験結果を画像で、面積の求め方の説明を動画で撮影し共有するなどのカメラ機能を利用した事例が多くあります。参考で紹介いただいた「D-project」は本市のICT活用教育アドバイザーの放送大学 中川一史教授が会長をされています。一度サイトを見てみてください。「ICTにふり回されることなく、子どもの学びを見つめて授業をデザインしていく」ヒントが見つかると思います。情報提供ありがとうございました。